

# 「飽水管理」「間断かん水」で根の活力を維持しましょう！ 草刈りの徹底で斑点米カメムシ類の密度低減！

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動本部

## ◎ 生育概況

7月10日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、草丈はやや長く、茎数は平年に比べてやや少なく、葉数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。

農業総合研究センターの調査によると、出穂期はやや早い予想です。

平坦部「はえぬき」の生育（7月10日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	61.7 cm	60.0 cm	103 やや長い
茎数	620 本/m <sup>2</sup>	642 本/m <sup>2</sup>	97 やや少ない
葉数	10.8 枚	10.5 枚	0.3 やや多い
葉色 (SPAD)	43.8	42.8	1.0 やや濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

予想出穂期（7月10日現在、農業総合研究センター調べ）

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期 <sup>※</sup>	平年差
はえぬき	山形市みのりが丘	8月1日	8月3日	-2日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月1日	-1日
雪若丸	山形市みのりが丘	8月1日	8月3日	-2日
	鶴岡市藤島	7月31日	8月2日	-2日
つや姫	山形市みのりが丘	8月7日	8月9日	-2日
	鶴岡市藤島	8月8日	8月10日	-2日

※過去7か年（H28～R4）の平均値

## ◎当面の技術対策

7月4日発表の1か月予報（7月6日～8月5日）では、平年に比べ気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

高品質・良食味米を生産するために、高温や気象の変化に十分注意しながら、きめ細かな栽培管理を行いましょう。

### （1）7月7日～10日の雨で浸水の被害を受けた圃場は、特にこまめな水管理を！

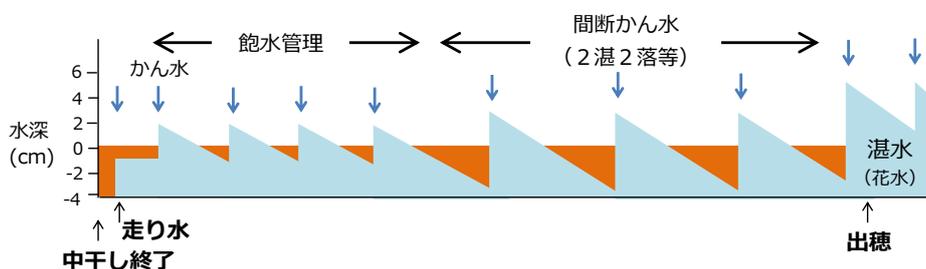
浸水した圃場では、根の活力低下が懸念されます。圃場の水を新しい水と交換して、こまめに間断かん水を行い、根の機能維持に努めましょう。また、稲体の損傷や体質の低下等の影響で病害虫の発生リスクが高まります。圃場の観察をこまめに行って、早期発見と適切な防除に努めましょう。

## (2) 水管理の徹底 ～「飽水管理」「間断かん水」で根の活力維持～

穂肥施用後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）を行います。その後は間断かん水に移行し、根をしっかり張らせながら根の活力を維持します。水をためっぱなしにすると土壌の還元が進んで根へのダメージが大きくなってしまいます。

なお、水管理を効率的かつ容易にするため、作溝はしっかり掘りましょう。

水管理のイメージ（中干し終了後～出穂まで）



## (3) 斑点米カメムシ類対策 ～ 畦畔、法面、農道の除草を徹底！～

**斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べて多く、7月2日付けで注意報が発表されています。**畦畔、法面、農道、休耕田等で雑草が繁茂しているところでは、**出穂2週間前頃までに地域全体で草刈り等の除草対策を徹底し、今後の斑点米カメムシ類の増殖を抑制しましょう。**また、主要な斑点米カメムシ類である「アカスジカスミカメ」はノビエやホタルイ等に産卵して増殖するので、**本田の残草対策も万全に行います。**

## (4) 葉いもち対策 ～早期発見・早期防除～

6月下旬以降、いもち病の感染に好適な気象条件となる日が見られており、降水量は平年より多くなる予報であることから、感染拡大が懸念されます。**ほ場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底します。**

## つや姫 の生育と技術対策

7月10日現在の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。なお、**出穂期は早まる予想で、既に穂肥施用の適期に入っています。**穂肥の施用が遅れると食味が低下しやすくなりますので、直ちに生育診断に基づいた穂肥を行います。なお、窒素成分は1.0～1.5kg/10aとし、葉色が濃い場合は穂肥を控えます。

「つや姫」の生育（7月10日現在）

項目	調査値	平年値	平年比・差
草丈	65.6 cm	59.8 cm	110 長い
茎数	610 本/m <sup>2</sup>	557 本/m <sup>2</sup>	110 多い
葉数	10.7 枚	10.4 枚	0.3 やや多い
葉色 (SPAD)	41.6	40.2	1.4 やや濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

地域全体に用水が行き渡るように関係者でよく話し合い、  
限りある用水を効率的に利用しましょう

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう！

山形県農薬危害防止運動実施中 令和6年6月1日～8月31日

